

第90回日本泌尿器科学会東部総会 ダイバーシティ推進委員会企画プログラム

連携から泌尿器疾患を考える～開業医と病院勤務医の連携から見える未来～

＜指導医教育コースプログラム＞

日時 2025年10月25日 (土)

会場 Gメッセ群馬 1F展示ホール内 第一会場

大会長 鈴木 和浩 教授 (群馬大学)

札幌医科大学 泌尿器科学講座

日本泌尿器科学会 ダイバーシティ推進委員会

進藤 哲哉

本企画は、第90回日本泌尿器科学会東部総会のテーマでもある「連携」をもとに開業医と病院勤務医の連携を考える趣旨により構成された。特に泌尿器科の領域においては急性期から慢性期まで継続的かつ効率的な医療を提供することが求められ、病院勤務医と開業医との連携は極めて重要と考えられる。更に都市部と地方における在宅医療の現状や課題をお話頂くことで泌尿器科医の多様なキャリアが存在することに関しても触れて頂く内容となっている。以下の先生方により本企画が行われた。

座長) 及川 剛宏 先生 (おいかわ腎泌尿器クリニック院長)

瀬戸口 志保 先生 (成城せとぐちクリニック院長)

演者) 新海信雄 先生 (札幌在宅クリニックそよ風院長)

矢澤 聰 先生 (医療法人 慶聰会 理事長)

川村 裕子先生 (日本海総合病院 診療部長・泌尿器科部長)

新海信雄先生「泌尿器科専門医から転身した在宅診療医の立場から」

新海先生のご講演では訪問診療と往診の違いや、訪問診療において施行可能な検査（尿検査、血液検査、心電図検査、超音波）や処置（点滴、注射、胃管、麻薬を用いた緩和ケア、在宅酸素、膀胱ろう管理、褥瘡治療など）に関する紹介を頂いた。また泌尿器科専門医として訪問診療での排尿障害や尿路感染症や血尿への対応可能な程度や範囲についてもお話し頂いた。一方で、対応が困難なケース、特にカテーテル挿入困難症例、高度血尿などに対する対応、放射線照射が必要な症例への対応に関しても触れていた。

訪問診療において可能な範囲と対応困難な状況を知ってもらうことにより病院勤務医との更なる連携を模索していく必要があると考えられた。

矢澤 聰 先生「都市部で開業することの難しさと連携の課題」

矢澤先生のご講演では都市部での開業や都市部の訪問診療に関してご講演をいただいた。都市部における通院困難な原因の調査では泌尿器科疾患が第3位となっており、泌尿器科医の関わる訪問診療の重要性を認識させられた。在宅医療提供体制の充実度と困難度、良質な在宅ケア維持の困難さ、人材の確保に関する課題など様々な問題と向き合う必要があり、さらに在宅療養支援診療所の減少や診療報酬の引き下げによる経済的な問題点に関しても触れられた。都市部での開業の課題として競合、費用、クレームリスクなどもお話を頂いた。都市部での連携に関しては、地域包括システムの充実が重要であり地域において病院勤務医と開業医が互いに顔がみえ、信頼できる関係を形成することが求められることを認識させられた。また訪問診療を病院勤務医が提案することを比較的早期に行うことや、より充実したケアプランや患者さんの希望に沿う診療を提供できる可能性があることもお話を頂いた。

川村裕子先生「病院勤務医の立場から」

川村先生からは、酒田市庄内地域における医療の現状をお話を頂いた。地域における高齢化の問題、人口減少、また開業医の高齢化などの背景から逆紹介を行うべきか迷われるような症例が存在していることを講演頂いた。また地域における医療情報ネットワークであるちようかいネットの有用性に関してもご講演頂いた。

その後のパネルディスカッションでは以下の3点に関して議論がなされた。

① 地域の泌尿器科連携でもっともむずかしいつなぎ目：

泌尿器科医が在宅医療を提供するという人材が不足している。また地域の勤務医から訪問診療医への適切な紹介のタイミングも重要であり、病院勤務医が考えるより早めに紹介することにより、患者さんが充実したケアを受けられる可能性がある。

② 多様性をいかす連携：

多職種での情報共有をしてから訪問診療へ移行することが重要である。「退院前カンファレンス」や「サービス担当者会議」などの連携が重要。病院にもどる患者さんもいることを念頭におく必要もある。

③ 未来への提言：

20年後を見据えてどんなダイバーシティ連携をおこなうか

・高齢化社会において泌尿器科医がはたすべき役割が大きい。泌尿器科医からの訪問診療医には潜在的なニーズもある。サービス利用にいたらない患者さん、アクセス方法を患者さん側にしてもらう仕組みが必要になってくるのではないか。これからさらに顕著となる高齢化社会に備えるため勤務医と開業医が連携して人材の確保や医療の提供を行うような形態を考慮していくべきだろう。



左から瀬戸口 志保先生、矢澤 聰先生、川村裕子先生、新海信雄先生、及川剛宏先生、
大野 芳正先生